

生育状況

今年の育苗期間中は高温日が続き、一部で苗の葉先焼けや高温障害が確認され、一部苗が徒長気味となるものもありました。

田植時期である5月初旬については強風の日があり、移植後間もない圃場では植え傷みの発生がみられました。植え傷んだ苗は活着がやや遅れましたが、回復しております。

4月下旬以降の平均気温は平年よりやや低く推移した為、初期生育や茎数の増加についてはやや遅めとなりました。

病害虫防除

出穂始期 穂揃い期 -8~10日 ±0日	+8~10日
イモチエース スタークル粒剤	
ダブルカットバリダ トレボン粉剤3DL	
ダブルカットスタークル 粉剤DL	
スタークル粒剤	
トレボン粉剤DL	
《仕上防除》 いもち病 紋枯れ病 カメムシ類、等	

カメムシ防除（仕上防除）

出穂期以降高温が続く場合、カメムシ等の害虫の発生が多くなります。特に、カメムシは斑点米の原因になり等級を著しく低下させます。(カメムシによる等級格落ち過去3年実績:下記参照)

また、成熟期後半の枝梗いもちは登熟歩合の低下、千粒重の低下などの原因になります。

○カメムシによる等級格落ち内容実績（過去3年） 単位：30kg/袋、%

年 産	第1位		第2位		第3位	
	内容	割合	内容	割合	内容	割合
令和3年	カメムシ	30.4	乳白	16.8	基部未熟	16.3
令和2年	カメムシ	32.0	基部未熟	24.1	乳白	12.7
令和元年	基部未熟	30.8	乳白	25.1	カメムシ	20.7

畦畔はカメムシ類の発生場所（住処）です。

出穂10日前頃までに、草刈り等を実施し、穂への飛来を抑制しましょう。

使用適期	薬 剤 名	対象病害虫	使用時期	使用回数	使用量
穂ばらみ期	イモチエーススタークル粒剤	いもち病・ウンカ類・カメムシ類	収穫35日前まで	1回	3kg/10a
	ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL	穂いもち・紋枯病・ツマグロヨコバイ・ウンカ類他・カメムシ類	穂揃い期まで	2回以内	3~4kg/10a 4kg/10a(カメムシ類)
穂 揃 い 期	ダブルカットスタークル粉剤DL	いもち病・ツマグロヨコバイ・ウンカ類他・カメムシ類	穂揃い期まで	2回以内	3~4kg/10a 4kg/10a(カメムシ類)
	スタークル粒剤	カメムシ類・ツマグロヨコバイ・ウンカ類他	収穫7日前まで	3回以内	3kg/10a
	スタークル豆つぶ剤				250g/10a
発 生 時	トレボン粉剤DL	カメムシ類・ツマグロヨコバイ・ウンカ類・イナゴ類・コブメイガ他			3~4kg/10a

- ※ 『オリブライト粒剤』『イモチエーススタークル粒剤』等のストロビルリン系の成分が含まれる農薬はいずれか1回の使用として下さい。
- ※ 薬剤散布は、風の少ない早朝または夕方に行いましょう。
- ※ 農薬使用の収穫前日数に注意。薬剤によって使用基準が異なるのでラベルをよく読んでから防除をしましょう。
- ※ みえのゆめのごま葉枯病防除は必要です。もしまだ防除されていない方は、収穫45日前までにオリブライト粒剤を必ず散布してください。
- ※ 尚、発生がある場合はブラシン粉剤DLを収穫21日前までに2回を限度として10a当り3~4kg散布してください。
- ※ いもち病やカメムシ被害の防除をせず共同乾燥施設に搬入すると、共同乾燥施設全体の米の等級が著しく下げられるおそれがありますので、確実な防除を行いましょう。

水管理

良好な登熟を促し品質の良い米をつくるためには、健康な根の張りが必要です。登熟期の異常な気象は、品質を低下させますが、根の張りが十分であれば、影響を受けにくくなります。

中干し終了後は間断灌水とし、水をためっぱなしにしない事。水をためっぱなしにすると、土中に酸素が行き届かず根ぐされの原因となり、登熟不良を助長します。

また、間断灌水の実施や浅水の管理により土壌中の酸素不足を防ぎ根及び株を弱めず乳白粒等による品質低下を防ぎましょう。

ただし、出穂期は浅水に湛水して、出穂直後の粉からの蒸散による影響を軽減しましょう。

栽培管理の記録は記帳いただいていますか？

安全・安心の確保と「伊賀米」の定義付けにより消費者に信頼され選ばれる産地形成の確立を図る為に、栽培管理の記録に記帳し、必ず提出ください。記入に際して不明な点がございましたら、最寄りのふれあい店・グリーンショップ又は営農経済センターへお尋ね下さい。

伊賀米栽培管理記録（A3用紙）およびチェックリストについては8月家庭訪問日に配布いたします。
伊賀米栽培管理記録は出荷前及び施設搬入前に速やかに各営農経済センター・グリーンショップ
または、ご利用いただく施設へ提出をお願いします。

土壌診断について

☆JAでは、水稻の土壌診断を無料で実施します。

・土の取る時期：一般に収穫直後（水稻の場合、刈取後位1か月以内）

刈取後・・・サンプル土提出 ⇒ 分析 ⇒ 診断結果

（土壌診断が集中した場合、サンプル提出後分析結果が出るまで2か月以上かかる場合があります）

★処方箋を参考に土壌改良材施肥量を決める方法★

パターン1

収穫後サンプルを提出し、処方箋を参考に土壌改良材及び施肥量を決める。

パターン2

前年の処方箋を参考に土壌改良材及び施肥量を決める。

例) 令和3年作刈取後の処方箋を参考に令和5年産に向けて土壌改良材・施肥用を決める。
又、令和4年産刈取後の土壌診断も行い、翌年に備える。

前年産刈取後の処方箋をお持ちの方で、令和5年産に向けての土壌改良材・施肥用を決める場合、営農指導員が対応させていただきますので、希望の方は、各営農経済センターへご連絡下さい。



★LINE公式アカウント【営農部】を開設しました！

JAいがふるさとでは、今年度の営農指導の取組みとして、LINE公式アカウント【営農部】を開設しました。営農指導情報や、今年産の生育予測など、タイムリーな情報を随時お伝えしますので、是非、下記QRコードからLINE友だち登録をよろしくお願いたします！（事前にLINEアプリのダウンロードをお願いいたします。）



LINE友だち追加方法

- ① QRコードをスマートフォンカメラで読み取る。
- ② 読み取ると、LINEの画面に移るので、友だち追加ボタンを押す。